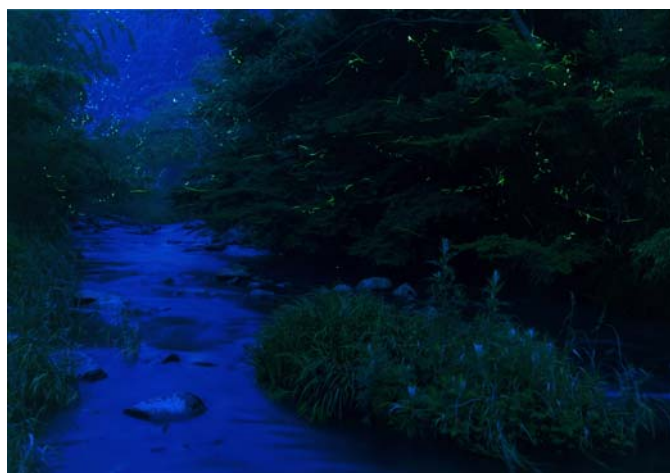


連合長崎第14回フォトコンテスト最優秀賞が決定!

2015年9月11日(金)に「連合長崎第14回フォトコンテスト」の審査を行いました。今年は、72点の応募があり、「清流のほたる(佐世保重工労組・内田貴浩さんの作品)」が最優秀賞に決定しました。

内田さんには、10月22日(木)に開催される連合長崎第25回定期大会で表彰状と記念品を授与させていただきます。

最優秀賞



「清流のほたる」

内田 貴浩さん
(佐世保重工労組)

優秀賞



「灯り」

中村 昇さん
(佐世保市役所職員組合)



「激流のハンター」

八木 浩一さん
(九電ユニオン長崎支部OB)

連合長崎会長賞



「人生」

村瀬 潤さん
(三菱重工労組長船支部)

入賞



「ある日、港にて」

池田 寛章さん
(県職長崎支部)



「アンブレラ通り」

楠本 邦博さん
(大村市職員組合OB)

入賞



「いざ 東京へ」

長浦 敏雄さん
(佐世保重工労組OB)



「女子会の鉢内探訪」

左村 博志さん
(西肥自動車労組OB)

佳作



「夏のはじまり」

月岡 洋平さん
(三菱重工労組長船支部)



「おゆうぎ会」

谷口 喬介さん
(九電ユニオン長崎支部OB)



「航跡」

五輪 繁美さん
(三菱重工労組長船支部)



「アジア最大級の客船水辺の森に迫る」

金松 孝一さん
(県職長崎支部)



「何グラム？」

近藤 文洋さん
(前畑造船労働組合)



「捕獲」

矢津 充浩さん
(佐世保重工労組OB)



「グラスの中の棚田」

山口 哲男さん
(長崎県タクシー労組
観光タクシー支部OB)



「海苔漁場へ」

堀 隆義さん
(長崎県タクシー労組観光タクシー支部OB)



「私もきれいでしょ」

尾崎 等さん
(九電ユニオンOB)



「宵の灯火」

松井 節子さん
(佐世保重工労組OB)

「連合長崎2015年度政策・制度要求書」を長崎県へ提出

9月10日(木)、長崎県庁において、連合長崎「2015年度政策・制度に関する要求書」を森会長から長崎県中村知事へ手交しました。

要求書提出にあたり、森会長から「超少子高齢化や人口減少の中で働く現役世代の減少が大きな課題であり、雇用があっても不安定な雇用や非正規労働が増加している。良質な雇用の場を確保しなければならない」と強調した後、2015年度政策・制度要求(18分野55項目)のうち、重点項目として以下の3点について口頭にて要請しました。

【2015年度政策・制度に関する要求：重点項目】

- ①安定した良質な雇用の確保に向けた具体的な対策を講じること。また平成27(2015)年4月に施行された改正パートタイム労働法に基づき短時間労働者の公正な処遇を確保するとともに、法の適用が及ばない公務職場に雇用(任用)されている臨時・非常勤等職員の労働条件に関しても、パートタイム労働法の趣旨を踏まえて、賃金・待遇を改善すること。
- ②平成28(2016)年夏の参議院議員選挙より選挙権年齢が18歳以上に引き下げられることに伴い、若年層を中心に全年代の投票率向上に向け、実効性のある啓発活動、環境整備を行うこと。

③県は『まち・ひと・しごと創生法』に基づき、産・官・学・金・労・言および地域住民で構成する推進組織を設置し、『長崎県版総合戦略』を策定することとしているが、県内すべての市町に対し同様の推進組織のもと幅広い声を集約し『市町版総合戦略』を策定するよう指導・調整を行うこと。

中村県知事からは、「企業を誘致する際にも、正社員での採用をお願いしている。地域に根付いて活躍できる場があることは、地域の創生にもつながる」「(選挙について)若者にどのような形で政治に関心を持ってもらうかが課題。棄権が無いように環境づくりに努めたい」との回答がありました。正式な回答が後日ある予定です。



中村県知事に要求書を手渡す森会長

諫早市で写真教室を開催!

2015年9月12日(土)に諫早市勤労者福祉会館で「連合長崎2015写真教室」を開きました。写真教室には、組合員およびその家族総勢32名が参加しました。前半は写真の撮り方の講義があり、シャッタースピード・絞り・ISO感度など初心者にも分かりやすく説明をしてもらいました。後半は、実際に野外に出て写真撮影をし、お昼をはさんで先生からの講評をいただきました。今回は天候にも恵まれ野外撮影でもそれぞれの力作が生まれていたようです。今回の教室で学んだことを、趣味そして広報・教宣活動にぜひ活かしていただければと思います。



2015 連合平和行動 in 根室

9月11日～12日、北海道根室市にて「2015連合平和行動 in 根室」が開催され、連合長崎から江口副会長を団長とする23名が参加しました。

1日目は、北海道立北方四島交流センターにて北方四島学習会が実施され、第1部では第2次世界大戦直後に北方四島で起きたソ連軍進駐を題材にした映画「ジヨバンニの島」を鑑賞しました。

引き続き第2部の「返還運動関係者セミナー」では、4つのセミナーが開催され、各セミナーに分かれ参加しました。

第1セミナーでは「次代へ受け継ぐ平和への歩み」をテーマに開催され、「ジヨバンニの島」の登場人物のモデルとなった得能宏さんや、元島民の鈴木咲子さん、返還運動に取り組んでいる堀江則男さんなどからお話を受け、会場との意見交換が行われました。長崎からも感想として、「元島民の平均年齢が80歳を超え次世代への継承が課題との話があったが、まさに長崎の被爆継承と同じ課題を抱えていると感じた。長崎も平和行動に取り組んでおり、原爆への関心は高いが、残念ながら北方領土に関しては普段意識している人は少ないと思う。長崎の平和行動においても、何か領土問題を意識する取り組みを工夫したい。」と発言しました。

2日目は、納沙布岬・望郷の岬公園で1,200名が参加し、あいにくの雨が降る中でしたが「2015平和ノサップ集会」が開催されました。



平和メッセージを伝える
江口副会長

集会では元島民の訴えや、竹島問題に取り組む連合島根からの取り組み報告の後、連合長崎からは江口茂広副会長が登壇し、平和メッセージを発信しました。江口副会長からは、平和行動in長崎の報告とお礼に続き、「北方領土問題の解決のためには、政府がロシアとの外交交渉を粘り強く継続していく必要があるが、この交渉を後押しする最大の力は、北方領土の返還を求める一致した国民世論である。」と述べ、集会を機に運動の輪をさらにひろげていくことを呼びかけました。

最後に、「連合は、日本政府による領土交渉のさらなる加速に向け、今後も諸団体との連携のもとで世論を喚起し、国を挙げて交渉に臨む体制づくりを民間の立場から後押ししていく。同時に、若者を中心とした『語り部の継承』にもさらに力を入れ、元島民の平和への想いを未来に受け継いでいく。」とする集会アピールを満場一致で確認し、集会を閉会しました。



東北の子ども応援

わんぱくプロジェクト

～長崎・佐賀の子どもたちが岩手を訪問～

8月に岩手の子どもたちが長崎・佐賀に訪問しましたが、10月10日～12日の連休に今度は長崎・佐賀の子どもたちが岩手県を訪れ、子どもたちとの再会を果たしました。

1日目は朝早くから長崎空港に集合しました。伊丹・仙台と飛行機を乗り継ぎ、それからバスで岩手に行くという大移動でした。仙台空港では、2011年の東日本大震災で津波に襲われており、津波の到達点の標識を見て、被災地に来たことを実感しました。

奇跡の一本松で有名な陸前高田市に到着。防潮堤や巨大ベルトコンベアで土砂を運ぶかさ上げ工事がされており、震災前の町の姿とは大きく変わっていました。震災遺構として残されている「タピック45」(道の駅跡)を見学。その後、バスからも町の被災地建物や復興状況を見学し、大船渡津波伝承館へ。津波の実際の映像を見て、「普段の心構えが大切」「自分だけ大丈夫ではない」「地震が起きたら、早い時間に高いところへ」という防災学習をしました。

2日目は職場見学として「太平洋セメント工場」を見



震災跡地(タピック45)

学しました。専用鉄道で運ばれてくる石灰石、1000℃を越えるキルンという装置で化学反応を加えられ、またセメントになった後はタンカーで運ばれていくといった、何もかもが巨大な工場でした。実際にキルンの近くに立つことができ、その熱風を肌で感じることが出来ました。それから、三陸鉄道レトロ列車



追悼施設で献花



太平洋セメント工場見学

に乗って、恋し浜にホタテ貝の絵馬を掛けに行きました。レトロ列車は貸し切り運行だったので、みんな運転手・車掌気分が味わえ、大変満喫しました。

午後からは、漁船に乗せてもらい、ふれあいランドに到着。岩手の子どもたちと再会し、連合岩手気仙地協の皆様のご協力により、ポール送り・綱引き・鬼ごっこ(逃走中)などの種目のミニ運動会に参加しました。その後、地域総出で屋台を準備していただいて、

カキやホタテ、サンマなどの海の幸に舌鼓を打ちました。2日目の夜は、岩手の子どもたちも同じホテルに泊まり、夜遅くまで楽しんでいました。

3日目は岩手の子どもたちとお別れをし、世界遺産の中尊寺金色堂を見学して帰りました。子どもたちもスタッフも震災について学習し、また岩手の人たちの温かいおもてなしに触れ、大変貴重な思い出深い交流となりました。



地元のかたの漁船に乗せてもらいました



ミニ運動会(長縄跳び)

2015 年末 あしなが育英会 支援キャンペーン 2015.11.1日~12.31日

学校って楽しい！
将来の夢が
みつかったよ。

子どもたちの将来を明るくする
(預金)をしませんか？

「あしなが育英会」について

「あしなが育英会」は、病気や災害、自死(自殺)などで親を亡くした子どもたちや親が重度後遺障害で働けない家庭の子どもたちの物心両面を支える民間非営利団体です。その活動のすべてを寄付金によって運営しています。東日本大震災以降、ろうきん業務をあげて支援を続けており、福祉金融機関として活動するろうきんでは、「あしなが育英会」を支援先の一つとして、より多くの子どもたちの成長の支援に取り組んでいます。

寄付対象となる預金について

キャンペーン期間中に預けていただいた定期預金(退職者専用定期等を除きます)を寄付対象とさせていただきます。

※口座振替による預金・解約は寄付対象外となります。
(1)口座振替専用定期・活期・定期預金・小・大・定額預金、ろうきん個人定期預金、活期・定期・つみたてつみたての定期預金

寄付金について

キャンペーン寄付対象となる定期預金の新規・入金金の0.02%相当額を(九州ろうきん)が拠出し、あしなが育英会へ寄付します。

つかえるろうきん みんなのろうきん
九州ろうきん

九州ろうきんの社会貢献活動

地域に役立つ(ろうきん)をめざして、
さまざまな支援活動に取り組んでいます。

1 NPOとの協働による取り組み ボランティア預金「NPO/パートナーズ」

九州ろうきんでは、NPO法人やボランティアグループ、市民団体などが行う活動や事業に対し、「ボランティア預金(NPO/パートナーズ)」の寄付金と、ろうきんからの拠出金を財源として助成を行っています。これまでの助成総額は854団体・1億8千万円に上ります。

預金種類	スーパー定期・大口定期預金
預入期間	1年・自動継続
預入金額	10,000円以上(個人・団体)
預金金利	毎年、3月期(連)の店頭表示金利から30%引き下げた金利(小・大・定期)以下で、例年4月1日(祝)から翌年3月31日までの期間に限り、ボランティア預金(NPO/パートナーズ)に適用します。*年内の自動継続時の利率も同様となります。

2 (ハートフルサポート) ピンクリボン運動の支援

「ピンクリボン運動」とは、乳がんの正しい知識を広め早期発見・早期治療の大切さを啓発する活動です。九州ろうきんはピンクリボン運動に賛同し、お客さまが九州ろうきんのATMでお引出し・お預入れいただく、1個につき1円をピンクリボン運動を推進しているNPO法人に寄付しています。

3 未来を担う子どもたちへの支援

子どもたちを犯罪から守る活動として、「こども110番の店」に参加、お客さま連れでご来店のお客さまに防犯用の「ツカエルホッスル」をプレゼントしています。このツカエルホッスルは、ご希望に応じて学校へ寄贈しています。

児童養護施設の子どもの成長を応援する活動として、01歳児に対して年に2回希望の図書を寄贈しています。

春爛漫に、子どもたちからいただいたメッセージカードは、地域のみなさまとともに成長を見守ることを目的に、番寄りの営業窓口へ一定期間掲示しています。

お取扱い店舗

担当印

つかえるろうきん みんなのろうきん
九州ろうきん
http://kyusyu.rokin.or.jp/
九州ろうきん 検索